

## 1 研究主題

主体的に学び、自分の考えを表現しながら共に学び合う児童の育成  
～協働学習と効果的な ICT の利活用を通して～

## 2 研究主題の趣旨

現代社会においてはインターネットがグローバルな情報通信基盤となり、スマートフォンやタブレット PC などの携帯情報通信端末が急速に普及している。情報通信技術 (Information and Communication Technology、以下「ICT」と表記) の進歩は、その利便性の向上に伴ってライフスタイルを多様化させ、我々の日常生活に大きな変化をもたらしている。

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、21世紀を生きる子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体といった「生きる力」を育むことが求められている。自分で考え自分で行動できること、その上で他者と助け合いながら、「生きる力」を身に付けることが重要である。そのために、一人一人の子どもの多様性を尊重しつつ、それぞれの強みを発揮させる個に応じた教育を行うとともに、異なる背景や多様な能力を持つ子どもたちが協働して新たな価値を生み出す教育が注目されている。

学校教育においても、ICT 機器を活用した 21 世紀にふさわしい「新たな学び」を創造することが重要な課題となっている。総務省の「フューチャースクール推進事業」や文部科学省の「学びのイノベーション事業」などでは、ICT 機器を活用した「一斉学習」「個別学習」「協働学習」による授業づくりや児童生徒 1 人 1 台による学習端末を利用した数多くの実践研究が行われてきた。電子黒板やデジタル教科書、無線 LAN 等が整備された環境の下で、教科指導や特別支援教育において ICT を効果的に利活用して、子どもたちが主体的に学習する新たな学びの創造が模索されてきた。

「学びのイノベーション事業実証研究報告書」には、小中学校の各教科等における ICT の利活用例及びその効果が、次のように示されている。

- ・ 画像や動画を活用した分かりやすい授業により、興味・関心を高め学習意欲が向上
- ・ 児童生徒の学習の習熟度に応じたデジタル教材を活用し、知識・理解の定着
- ・ 電子黒板等を用いて発表・話し合いを行うことにより、思考力や表現力が向上 など

ICT をコミュニケーション・ツールの一つとして利活用し、そのメリットを最大限に生かすために、「フューチャースクール推進事業」や「学びのイノベーション事業」の研究成果に学びながら、21世紀を生きる子どもたちに必要な「生きる力」を育んでいかなければならない。

本校においては、平成 26 (2014) 年度後半より総務省の「先導的教育システム実証事業」と文部科学省の「先導的な教育体制構築事業」の実証校に選定された。平成 28 (2016) 年度までの約 3 年間で「クラウド等を活用して、児童生徒の学習履歴を活用したきめ細かい指導、学校と家庭を問わない継続した学習や、低コストの教育 ICT システムを確立し、その成果を普及モデルとして推進する」ことを目標として実証研究を行う。

こうした流れを受けて、本校では ICT を活用した一斉学習や個別学習による授業はもちろんのこと、より確かな学力を育成することを目指して、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学びである「協働学習」を計画的に推進していく必要がある。その際に、総務省がクラウドサービスとして提供するデジタルコンテンツを活用したり、タブレット PC の各機能や協働学習支援ツールを活用したりして、課題解決に向けて児童が自分の考えを表現し合いながら共に学び合う協働学習を創造することが求められている。

一方、本校児童の実態として、読解力や表現力、思考力が十分に身に付いていない、高学年になるにつれて学習意欲が低くなっていることが課題となっている。また、根拠を明らかにして自分の考えを筋道を立てて説明したり、多様な意見を出し合うことで自分の考えを深めたりする力にも課題がある。

そこで、21世紀を生きる子どもたちに確かな学力を身に付けさせるために、まず児童が学習課題に対して自分なりの考えを持ち、その課題解決に向けた対話やグループ・全体での話し合いを行わせる。そうした双方向のコミュニケーション活動を通して、自分の考えを表現し合い、多様な考えを認め合いながら共に学び合うような「協働学習」を取り入れた授業づくりについての研究を推進していきたいと考えた。その際、児童の思考を可視化するために電子黒板やタブレット端末を用いて発表や話し合いを行わせることで、多角的な見方や考え方に触れたりすることが可能となり、思考力や表現力を高めることができると考え、本研究を進めていくことにした。

### 3 研究の目標（目指す子ども像）

- ・学習課題に対して自分なりの考えを持ち、主体的に学ぶ子ども
- ・目的意識や相手意識を持ち、自分の考えを筋道立てて表現する子ども
- ・多様な考えを認め合い、共に学び合いながら自分の考えを深める子ども

### 4 研究の仮説

ICT を効果的に利活用しながら子ども同士が学び合う協働学習に取り組むことで、確かな学力を身に付けた児童が育つであろう。

### 5 研究の内容と方法

#### （1）協働学習を取り入れた授業づくりについての研究

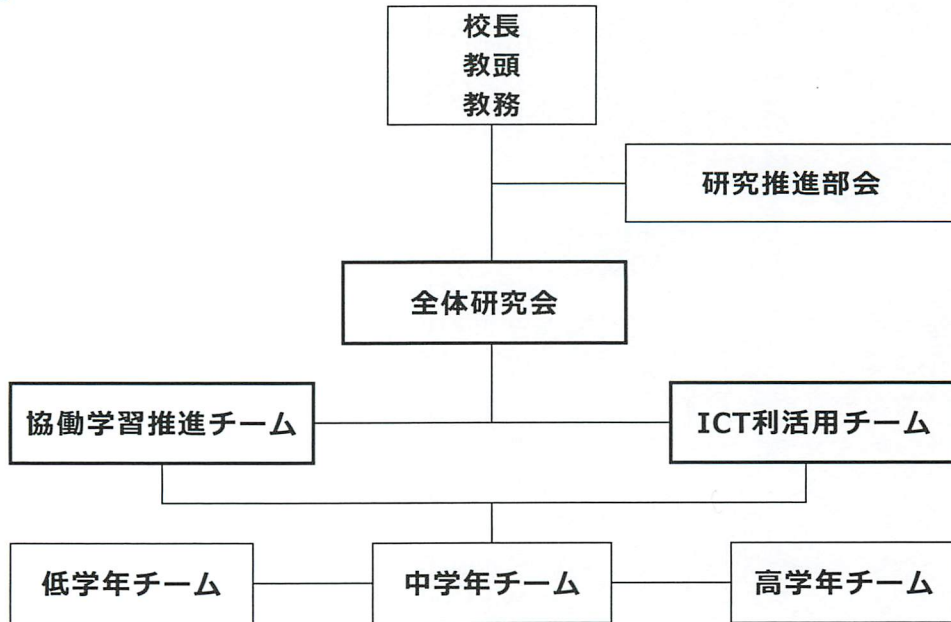
- ・部会による調査研究
- ・書籍等による調査研究
- ・講師招聘による研修会
- ・授業研究会
- ・授業実践交流
- ・1人1授業
- ・公開事業及びスマイル学習オープンデーに向けた授業研究

#### （2）協働学習に向けた ICT 機器の効果的な利活用の方法についての研究

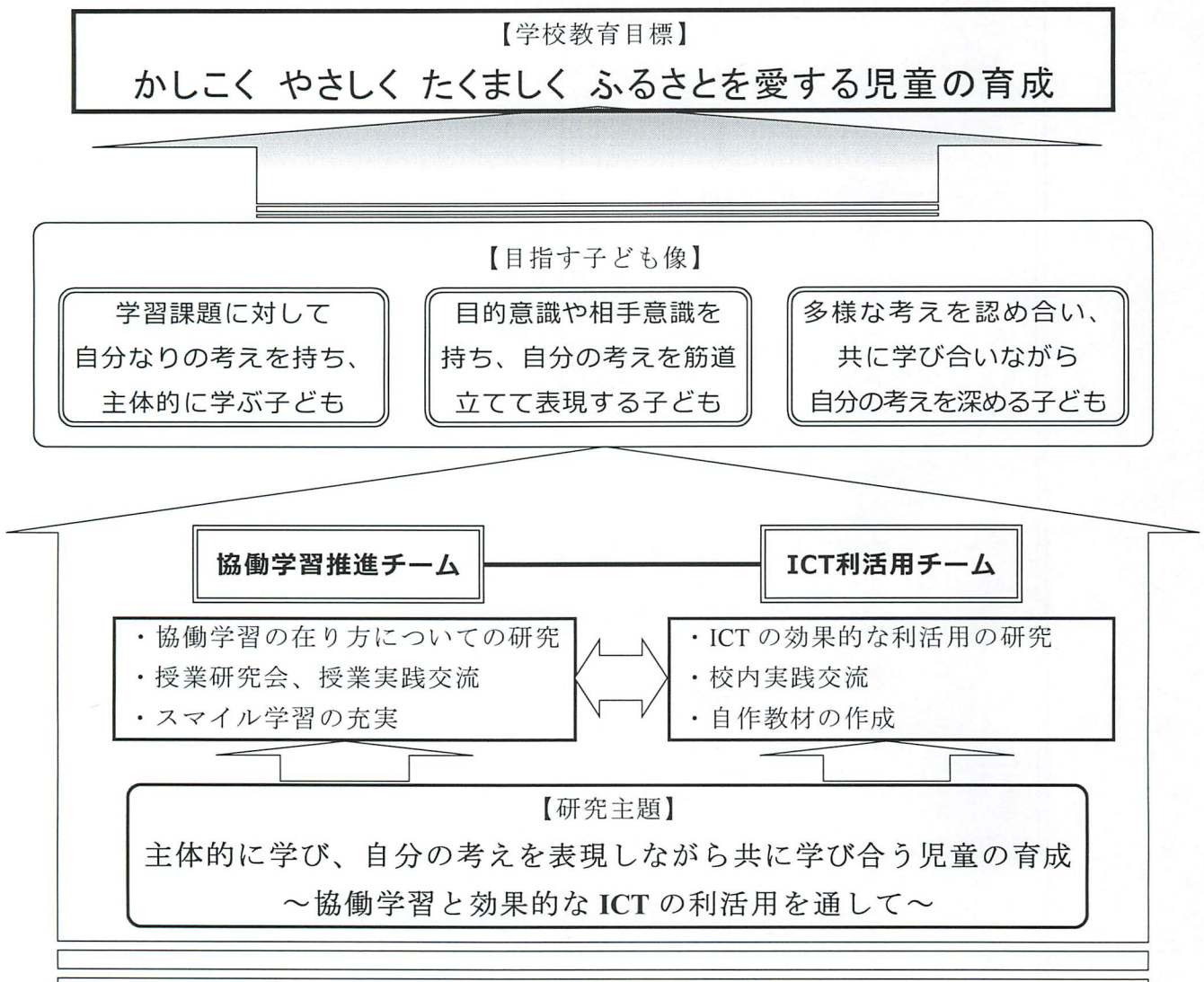
- ・部会による調査研究
- ・書籍等による調査研究
- ・小中合同学習会
- ・ICT利活用実践交流
- ・クラウドコンテンツの活用方法の研究
- ・特別支援教育の視点に立った ICT 利活用の在り方
- ・自作教材の作成



6 研究組織



7 研究の全体構想図



## 8 年間計画

月	内 容	月	内 容
4	研究構想の作成・提案 研究推進委員会① 「協働学習」についての共通理解 転入職員研修会	10	校内実践交流② 研究推進委員会③
5	タブレット端末活用に向けた研修会 授業研究会①（提案授業）	11	授業研究会③
6	先導的事業公開授業①（8日） 自作教材作りに向けた研修会	12	校内実践交流③ 先導的事業公開授業②（10日）
7	学校訪問／代表授業（予定） 校内実践交流① 研究推進委員会②	1	スマイル学習オープンデー（22日）
8	講師招聘による研修会 小中合同研修会	2	校内実践交流会④ 研究のまとめ作成
9	授業研究会②	3	研究推進委員会④